

	<p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物流効率化の支援 特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上の状況 ・個性ある地域の形成 IC等からのアクセスが向上する主要な観光地へのアクセス向上による効果 ・災害への備え 並行する高速ネットワークの代替路線として機能 <p style="text-align: right;">他8項目について効果の発現が見られる。</p>
	<p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>【大気質】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該区間の整備により自動車からの二酸化炭素・窒素酸化物・粒子状物質の排出量が削減され、環境負荷低減に貢献。 <p>CO2：約37千トン/年削減 NOX：約120トン/年削減 SPM：約9トン/年削減</p> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
<p>事業評価監視委員会の意見</p> <p>対応方針（案）のとおり対応方針を了承</p>	
<p>事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年並行する国道27号のバイパス（敦賀市～美浜町間）の4車線化完成 ・平成27年に京都縦貫道（京丹波わちIC～丹波IC）開通により全線開通 ・平成30年綾部PA～舞鶴西IC間4車線化、福知山IC～綾部IC間4車線化事業中 	
<p>今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性</p> <p>費用対効果分析の結果や現時点における利用状況、事業効果発現状況から、整備効果が得られており、本事業としては今後事後評価の必要性はないものと考えられる。</p>	
<p>計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性</p> <p>特になし</p>	
<p>特記事項</p> <p>特になし</p>	

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を、割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの

※1 当該評価区間の最終供用年を記載（小浜西～小浜：H23年度、小浜～敦賀JCT：H26年度）

※2 事前は平成24年度に実施した小浜西～敦賀JCTの再評価（全体事業）を記載